

Heartful Communications

JA ひがしみの

ひがしみの

特集

農業系高校特集 PART1

センパイ GO TO 恵那農業高校

3

2021 MARCH

Vol.276



農業系高校特集 PART 1

センパイ GO TO 恵那 農業高校

岐阜県立恵那農業高校を卒業後、それぞれの進路を経てJAひがしみの営農部門で働くようになった2人の若手職員が母校を訪れました。後輩たちとの対話のひと時には、恵那農高の魅力がいっぱいに詰まっていました。

JAひがしみの
営農販売戦略課
柘植 健太



入組7年目。本店営農部で米穀の買入れや販売を担当するほか、カントリーエレベーターやライスセンターなどの施設の統括も担当。農高時代の部活動ではバレーボールに打ち込み、地区大会で活躍。

JAひがしみの
営農企画指導課
ささ が せ

篠ヶ瀬 かりん

入組2年目。本店を拠点に、営農指導員としてトマト、なす、いちご農家の巡回指導に当たる。なす栽培農家を増やそうと取り組む「なす生産拡大大作戦」などに力を入れている。愛車は「小学生の頃からカッコイイと思っていた」軽トラ。



——まずは自己紹介としてそれぞれの仕事や取り組みの内容を教えてください。
(以下敬称略)

柘植 今は本店で米穀の担当をしています。JAに出荷していたお米をどこにどうやって売るかを考える仕事です。管内全域のカントリーエレベーターや、ライスセンター、育苗センターの運営にも携わっています。先輩や同僚、上司と一緒に、農家の所得を一番に考えて、米穀を買い入れたり売ったりしていく重要な役割ですね。

中学生の時、世界らん展での活躍を見て農高を目指し、2年生で出場した時には優秀賞をもらうことができました。農高では、クラスみんな、先生もわきあいあいとした雰囲気です。授業でシクラメンの生産と販売を学んだことで、作って売る側、買う側の両方の側面を見ることができた。JAでの仕事にも通じる部分があると思いますね。

自分が卒業して7年、今の農高でどんな活動があるのか興味が



恵那農業高校
園芸科学科

勝野 優風さん 3年生

卒業後は進学して幼児保育について学んでいく。園芸科学科の中でも、野菜班としてきゅうりの栽培などに奮闘。地元スーパーでも新鮮で香り高い「農高のきゅうり」は人気。今年度からは、きゅうりハウスでJGAPを取得しており、厳しい基準で栽培に励んできた。



恵那農業高校
園芸科学科

小栗 愛さん 3年生

この春からJAひがしみのに就職が内定している。2年生で参加した世界らん展2020では、仲間とともに「蘭の里」としてふるさとを表現し、ショーディスプレイクラスで最優秀賞を受賞。その他、天然細寒天の製造過程で出る搾りかすを肥料として実用化する研究などに取り組む。



恵那農業高校
食品科学科

駒田 岳士さん 3年生

進学して酵母の研究を続ける予定。里山の生物多様性の保全と持続可能な農業生産を目指す「花咲かみつばちプロジェクト」の活動に取り組む、なかでも、ハチミツを使った手に取りやすい加工食品の研究に打ち込む。農高で学ぶうちに料理好きとなり、夕食はほぼ毎日、家族の分も作る。



岐阜県立 恵那農業高等学校

所在地：恵那市大井町2625-17

昭和41年設立。学科は園芸科学科、食品科学科、環境科学科、園芸デザイン科の4つで、生徒数433名。その取り組みは、食農や園芸、SDGsなど各方面での受賞も多い。

あります。今日はいろいろと教えてくださいね！

篠ヶ瀬 私は主にトマト、なす、いちごの農家さんのハウスや畑に行つて、困っていることなどを聞き、収量・収入増加につなげられるよう対応するのが仕事です。

そのほか農業者向け労災の手続きや学校給食と地元の農家をつなぐ仲介役などもあります。

中学生のとき、勉強はあまり好きではなかったのですが、実習がある農業高校に魅力を感じました。ハウスや畑でのびのびと学ぶ中で自分の好きなことを見つけて追及ができ、結果的には大学進学を選びました。農高は先生も個性的な方が多くて楽しかったです。私は農高卒業後は名城大学の農学部で植物の生理・生態の勉強をしました。JAではまだ2年目です。地元が大好きで、就職も地元が第一条件でした。JAは事務もありますが、外に出て圃場で植物を見る機会が多いし、現場で農家の方と色々な話ができてのが楽しいですね。今日は今の農高のこと、いろいろと教えてください。そして、何でも聞いてください。

駒田 僕が食品科学科に入ったのは、家がトマト農家で、廃棄が出るのがもったいなくて、どうにかしたい、加工したらいいんじゃないか、と思ったのがきっかけでした。食品加工を学ぶ中で興味を持ったのが、発酵。普通の加工よりも、特色あるものができるんじゃないか、と。高校で見つけたこのテーマを、大学に進んで研究していきたいと思っています。昨日はちょうど、志望大学の試験でした(笑)。

勝野 園芸科学科で学びました。野菜が好きで、おばあちゃんの家、家庭菜園の手伝いもできるし、と農高に入りました。2年生の時、野菜班は11月から5月までの冬春の作型できゅうりの栽培をします。種をまいて、かぼちゃの台木に接ぎ木をして。それはとても繊細な作業で、普通のJK(女子高生)やらないだろうっていうくらい、ハウスにこもって半日くらい無言で(笑)。それから、ハウスの中で1人ひと畝ずつ任されて、すごくプレッシャーでしたね。失敗もしましたが、自分の管理している畝で100本以上のきゅうりが

採れた日はうれしかったです。先生もほめてくれて、きゅうりの成長は早く、土日のどちらかは絶対管理にいかないと間に合わない。部活動とは別で、部活並みに学校に通いました。朝採ったきゅうりは地元のスーパーや直売所に新鮮なまま出荷しているんです。きゅうり、好きになりましたね。嫌いにはならなかったです(笑)。

私はこれから進学して、農業とは違う幼児保育の方に進みますが、農業で学んだ思いやりの心や粘り強さを糧に頑張っていきたいです。

黄や青など技術的に難しい花色のシクラメンの販売もしています



小栗 愛さん

この春からJAで働きます

小栗 私も園芸科学科で学びました。農高に入っただけは、実習が楽しそうだったから。2年生で参加した世界らん展では、私たちの作った作品が最優秀賞をいただくことができました。最近の取り組みでは、山岡の寒天の製造過程で出る搾りかすを利用した肥料を作っていました。ジャガイモの生育が促進できるか実験し、未施用の区よりも生育がよい結果になりました。先輩から引き継いだこの研究は今年度で10年目。実用化に向け先輩が受け継いでくれます。

私はこの春からはJAで働く予定なので、どうぞよろしくお願いします。

柘植 僕たちの世代でも寒天かす活用の研究はされていきましたね。普通科の学校では体験できないことが多

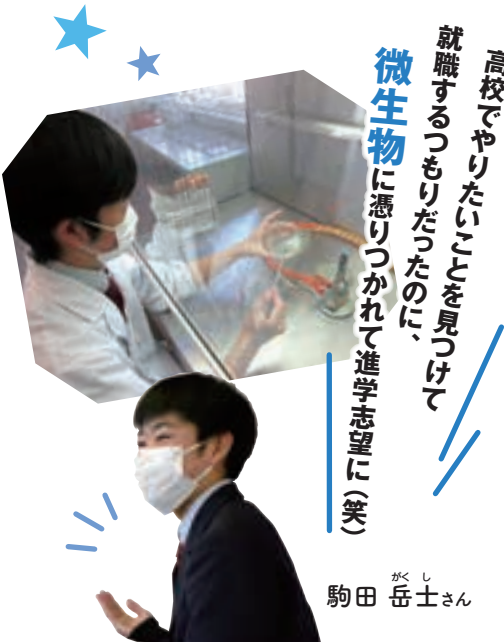
くて、地域で役立つ研究テーマがたくさんある。専攻以外の数学や歴史、英語などの普通科目も、もちろん頑張っていましたよ。

駒田 今、世界的にミツバチが減っていて、虫が花粉を媒介する作物や里山の草木も受粉ができなくなるとして大きな問題になっています。どうしたら地域の里山が保全できるか考えたとき、ミツバチを守るために蜜源植物を栽培して、そこで採れたハチミツを商品化して売ると同時に、消費者に状況を伝えて、関心を持ってもらおうとしています(※1)。

ハチミツは価格が高くて手が出にくいので、加工することで手に取りやすくしたい。ジャムの製造に使用したり、ハチミツから取り出した酵母でパンを作ったら特色あるものになるんじゃないかと。そして、買ってもらったお金でサイクルを回していく。

どうせ酵母を作るならお酒も作ったら、と話は広がっていき…。酵母を探していたら、いつの間にか微生物に憑りつかれて、進学志望に。もともとは高校でやりたいことが見つかって就職するつもりだったのに(笑)。

高校でやりたいことを見つけ就職するつもりだったのに、微生物に憑りつかれて進学志望に(笑)



駒田 岳士さん

小栗 昨年の世界らん展の時は2泊3日で東京ドームに行きました。はじめは、らん展も楽しみだけと東京に行けるのも楽しみで(笑)。でも実際は準備の2日間が大変で。朝7時や8時に会場入りして、終えて出るのは夜の9時ごろ。東京見物をする余裕はありませんでした(笑)。結果は最優秀賞をいただくことができ、とてもいい経験になりました。自分たちが育てた花が大きな作品になってたくさんの人に見てもらえるのがうれしかったですね。次の日のテレビ番組にも私たちの作品が映っていました。

恵那農高はたびたび、世界らん展で優秀な成績を収めています。先輩たちかららん原種を植え替えながら大切に引き継いでいることが大きいかもしれません。そうした貴重ならんを主役に作品を作り上げていけるのが強みです。

毎年のテーマは、岐阜県や地元自然。結果がついてくるといことは、ふるさとに素晴らしい自然があるんだと思います。

展示でこだわったのは、繊細ならんの茎が折れないように、とにかく丁寧に作業を進めたこと。それから、本物の苔を敷き詰めたのですが、その下地も土や新聞紙で厚みを変えてこだわりました。

柘植 こだわりを聞くと、自分もらん展に参加した時のことを思い出しますね。学校演習林から採ってきた苔をトレーに入れて毎日のように掃除して、自分たちで小さなごみを取り除くん

校内直売所「彩広場」

月・水・金曜日の14～15時営業。各種ジャム(250円～)や洋ラン、シクラメンのほか、季節ごとに栽培している草花や野菜、果物も値打ちに出品され、地域の方に人気の直売所。

(※1) このミツバチに関する活動は「花咲かみつばちプロジェクト」として3つの班にわかれて活動している。大学や地域と連携してみつばちの管理と蜜源植物の栽培、ハチミツの成分分析や園場付近の植生調査、ハチミツを利用した商品開発と販売、グリーンツーリズムの運営など幅広い活動につながっている。SDGsの目標達成へ向けた「第4回全国ユース環境活動発表大会」(2019年開催)において準グランプリを受賞。

です。もう、毎日毎日、僕は何をやっているんだろうって思うくらい(笑)。でも結果的に配置してみると、その掃除が大切だったんだと。自然を表現することにながっていたんですね。苦労しただけ感動は大きくなります。

自分の管理している畝で
100本以上の
きゅうりが採れた日は
うれしかったです



勝野 優風さん

——高校生から見て、JAはどんなイメージですか。

勝野 JAって堅苦しいイメージがあるので、実際どんなところなんだろうって、気になります。

柘植 守るべき決まりはもちろんありますが、割と柔軟です。より良くしていこうと自分たちで考えながらできる部分も多いですね。周りに相談しながらチームとして働ける。上司も、「時代に合った正解があって、若い職員の考えも必要」と言ってくれます。「組合員さんの利益が最優先だけど、まずは職員がイキイキと働かないと」って。

篠ヶ瀬 外に出る機会が多いですが、事務所にいるときは周りの上司、同僚と一緒に笑っていることも多い気がします。

パソコン仕事だけではないのが自分には合っています。

ですね。巡回先では、農業のことはもちろん、世間話、生活のこと、いろいろな話をする中で、信頼関係を築き、また仕事につながっていく部分もあります。

——農高出身者だからわかる「農高がある」はありますか。

勝野 女子高生って普通、みんな白さを保とうとすると思うんですけど、野菜班は特に夏になると、どれだけ日に焼けるかを競っていました。「私なんか、今日はまだ日焼け止め1回しか塗ってないよ」みたいに張り合っていました。

柘植 収穫の日の下校が大変っていうのはあるかな。例えば1年生の時はトマトを信じられないくらいたくさん袋に詰めて持ち帰ったり。親は喜びますけどね。2、3年生になると校内の直売所「彩広場」で販売もするので持ち帰りは減りますが。

小栗 1〜4限まで農作業とか(笑)。天気予報をよく見るようになりましたね。台風情報もとても気になる。あとは、地域の畑で何をどんなふうに使っているのか、気になって見ちゃいます。

篠ヶ瀬 JAの営農指導員あるとしては、例えば職場に3足の長靴がある、とか。田植え用、畜産用、園芸用、と。あとは、旅行先でも田んぼや畑についての興味がいきますね。

柘植 ここは稲刈りいつするんやろっ、とか(笑)。

上司は「時代に合った正解があって、若い職員の考えも必要」と言ってくれます



柘植 健太

知識面でも体力面でも
農高の経験が活かしていると思います



篠ヶ瀬 かりん

小栗 JAは人と関わる機会が多い仕事だと思いますが、農業高校で学んできたことが活かせる場面はありますか。

篠ヶ瀬 そうですね。専門用語はわかるので農家さんとの会話はしやすいと思います。それに、例えば農家さんのハウス建ての作業の応援に行くとき、体力面でも経験が活かしていると感じます。

仕事で今、なすの生産者を増やそうとする「なす生産拡大大作戦」に力を入れています。出荷希望者が1袋からでもなすを出荷できるよう取り組んでいます。私自身も昨年は自宅の畑で10本だけ、なすを栽培しました。売り物の、袋に入ったなすは見たことがあっても、そこまで整える大変さを味わったのは初めてで。規格外になってしまいうものが多くて、3食、なすを料理して食べたり(笑)。

柘植 僕の場合は園芸科学科で学んで、米穀の担当になったので、畑違いで知識ゼロからのスタートでした。直接活かしていることは少ないかもしれませんが、全部が新鮮です(笑)。

篠ヶ瀬 私みたいなまだ経験の浅い職員は、逆に農家の方に教わることも多いです。5年ほど前からはJAの営農指導員はタブレットを1人1台ずつ携帯していて、病害虫対策や農薬についてその場で調べながら正確な

情報提供ができるように頑張っています。それに、カメラで映した病変や害虫を画面で拡大して見たりもします。アブラムシやダニは小さくてルーペでも見つらいので。

勝野 今年度から、農高の授業でも1人1台タブレットを使っていきます。校内はWi-Fi完備です！

篠ヶ瀬 農高ではきゅうりの栽培で、有機JAS※2の他にも今年度からJGAP※3を取得したと聞きました。

勝野 はい。先生の指導の下、一番変わったのは、すごく手指消毒をするようになりました。きゅうりは病原菌に弱いので、作業が変わるたびに手指消毒をしてハウスの中を健全に保っています。掃除も厳しくなって、例えば袋詰め場所も、選別した品質ごとに絶対に混ぜられないようにしたりとか。

それから、新しい取り組みで、トマトの3S栽培※4の準備を進めています。令和3年度から1・5アのハウスで全面的に取り組むことになっています。農高トマトのこれからにぜひ注目してほしいですね。

駒田 令和3年の6月からは原則すべての食品関係の事業者がHACCP※5に沿った衛生管理をすることが法律で義務付けられます。僕たち食品科学科でも、HACCPを取得するための研究班を作りました。今まで以上に体中を念入りにホコリ除去したり、爪も白いところが全くないように切りそろえないと加工室には入れません。

——他校に自慢できるような農高ならではの取り組みを教えてください。

駒田 給食の献立をこれから考えて給食センターに行っている授業ですね。これまで食べる一方だった給食を、実際に自分たちで考えて、設備を借りて作ることができるワクワク感はずいぶん。食品科学科の自慢の授業の一つです。それに、わらびとに煮大豆を詰めて納豆を作ったのも面白かった。誰ひとりとして美味しそうな納豆は作れなくて、試食するのはちょっと大変でしたが(笑)。

小栗 草花とバイオテクノロジーの専攻では、自分で品種改良をする授業があるんです。例えばオレンジ色の花色と茎が曲がった特性を掛け合わせてみたり。黄や青などの技術的に難しい花色のシクラメンを育てて販売もしているんです。

「公欠」といって授業を学校公認で休んであちこちに販売実習に行くのも楽しかった。特に2年生で草花を専攻すると、花をトラックいっぱい積んで各イベントに販売に行きます。みんなが机に向かっていている時間に、バスに乗り込んで非日常を味わえる(笑)。「いい花だねえ」なんてお客さんが言ってくれて。

篠ヶ瀬 公欠は学校が認めた欠席で、単位がちゃんとつく欠席なんですよ。

勝野 公欠がある一方で、イベントや野菜の管理で週7日、登校するときもありました。制服をたくさん着たという意味では、他のどの学校に行くよりも女子高生でたんじやないかな(笑)。



(※2) 農薬や化学肥料などの化学物質に頼らないことを基本として生産された食品を表す。登録認証機関の検査を受けて認証された事業者のみが有機JASマークを表示できる。同校のきゅうり栽培では平成14年から認証を受けている。

(※3) JGAPとは、食品安全・労働安全・環境保全・人権福祉などの持続可能な農業経営への取り組みに対し認証機関が認証を行うもの。今回の東京オリンピック・パラリンピックで採用される食材の基準となっており、管内の農家でも取り組みが広がっている。JGAPの上にはさらにアジア共通の国際規格ASIA GAPもある。

(※4) 3S栽培は不織布のポットに入れた少量の土にトマトやナスを植え付け、簡易な装置で日射に応じて給液栽培する方法。省力管理や土壌病害を避けることができるとして当JA管内でも取り組みが広がっている。

簡単にできそうと思っていたきゅうりでも、ちよとしたことで菌核病やうどんこ病が出てすごくデリケートなんだと知りました。食べ物ってこんな風にできているんだ、と。だから、今まで当たり前にも考えずに食べていた野菜を、すごく噛んで食べるようになった(笑)。

おばあちゃんの手伝いでは収穫しか手伝っていなかったの、自分で一から作るのは初めてでした。農業は地味な作業が多いし、絶対女子にやらせる仕事じゃないでしょ、というくらい、一輪車にいつつぱいの馬糞を積まれて(笑)、土壌改良からやっていましたね。



「恵那農高きゅうり」は
地元スーパーでも人気



必ずきゅうりに入るときは
必ずエアダスターを全身に噴射

こんな重労働を農家の人は、雇用をしていなければ家族や1人だけでやっているなんてすごいな、と実感しました。

——先輩に相談してみたいことはありますか。

勝野 この春から1人暮らしをするんですが、食事とか、大丈夫になって。まだ卵焼きとかしかできないんですが。
柘植 僕も家庭では、ネットの情報を見ながらその通りに作って何とかなっています(笑)。卵焼きが出来れば、あとはお米があればなんとかなる。

駒田 僕も学校で学ぶうちに食べることに愛着がわいて、気付いたら夕食は毎日、僕が家族の分まで作っています。得意料理は煮込み系。長い時間、料理できると幸せ(笑)。休日8時間くらいかけてカレーを作ったり。玉ねぎ炒めるだけで楽しい。きれいな飴色に変わってきた、玉ねぎカワイイ(・v・)!!って写真撮ったりとか(笑)。学校でも、バレンタインデーは手作りとは思えないレベルのものが教室内でやりとりされます。あと、食品成分表をやたら見るようになりました。家が農家なので野菜はいっぱいあるんですが、お小遣いとバイト代は全部食費になります。同級生がカラ



オケに行っているとき、僕はそのお金で家族のいない隙を見計らって、いい肉を買って食べる(笑)。

勝野 生産元はよく見るようになりました。地元で作られたものに愛着を感じますね。美味しいし。

駒田 こんな風にしていて、僕は結婚できるのだろうか……思う時もあります(笑)。

柘植 僕も家庭では料理をします。男性も食べることに携わるのは大事ですよ。

米穀担当なので秋は忙しく、残業が増えて家族に支えてもらうことが増えますが、農家の方に頼りにしていただけて「ありがと」と言ってもらえると嬉しいですね。厳しい意見ももちろんいただきますが、気軽に話していただけるように、方言がすごい染み付いた(笑)。JAは家庭の事情なども考慮してもらえる風土があって、働きやすい職場だと思います。

——高校生から見た地元の良いところ、悪いところって何でしょうか。

勝野 地元はあったかいなと思いますね。登下校中もあいさつして、散歩中の犬に触らせてもらったり。話しやすい雰囲気地域の方が出てきてくれる。

小栗 私は遠くに出かけるよりも、家の周りで過ごすのが好きです。小さい頃から田んぼで走り回って遊んで

育ってきたので、安心します。畑に出ている近所の方と気軽にコミュニケーションがとれるのが良いところで、地元が田舎だからといって、悪いところはあまり感じていません。強いて言うなら、映画館が身近にあれば、と。

——今日の対談はいかがでしたか。

柘植 自分がいた時と変わらないことも、よりハイテクになっていることもありました。伝統もあるけど、年ごとに特色もあって、農高っていいな、と改めて思いました。

篠ヶ瀬 今日は懐かしさをいっぱい感じました。JAに新しく入ってくれる小栗さんとの場で出会えたことも、また、農高でやりたいことを見つけて進学を選んだ駒田さんの選択も自分と共通する部分があって、縁を感じました。

小栗 自分たちがやってきた実習や研究は先輩方から引き継いだものもたくさんあって、先輩たちにお話を聞いて、通じる部分がたくさんあってうれしかったです。農高で学んできたことは、農業に関係した仕事に就かなくても生きていくんだろなと感じました。

勝野 同じ科の同級生でも専攻が違うとお互いのやっていることを全く知らないことも多くて、知ることができてよかったです。先輩たちの活動があって、自分たちの活動の幅も広がってきているのを知ることができて、前よりも農高が好きになりました。農業、好きだになって実感しました。

駒田 JAの方と話して、今まで僕が持っていたJA＝堅いところというイメージはガラッと変わりました。親しみやすい新しいイメージができました。

農高のOBと話すごとで、農高で学んだことは卒業した後も生きてくるんだと思えたし、農高で3年間学べてよかったなと思います。

一同 ありがとございました!